

地域医療連携室だより

2007年3月



ごあいさつ

病院長 康 井 制 洋

そこかしこに明るい春の息吹が感じられる季節となりました。こども医療センターでは新病棟への移転から一年あまりが過ぎました。この間に予想をはるかに上まわる多くの患者さんに当センターをご利用いただき、病棟では週の半ばに占床率が100%を超えることもしばしばとなりました。ご紹介をいただきました各関係機関の皆様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて、いま日本の医療は大きくその姿を変えようとしています。小児医療体制も例外ではありません。県下全域で、小児医療の中核病院や医療機関の規模や内容の見直しが急速に進んでいます。

今後、良質な医療の継続的確保の条件には、集約化は避けられません。同時に、限られた医療資源の有効な活用のために、役割を明確にしたうえでの地元診療所や住民の皆様とのチーム医療体制の再構築が必要です。医師、看護師、コメディカルスタッフなどに加えて、ご家族や近隣の皆様、行政機関、献身的なボランティアなど、携わるすべての方々の参加がなければ「地域完結型の医療」には到達できません。

良質な医療を安全に、効率よく、身近に、そして少しでも患者さんの負担が軽減される形とするためには、役割分担を軸とする「地域医療連携」の共通認識と信頼関係の構築がなによりも大切です。

こども医療センターは、在宅医療を始めとして、病気や障害に負けない子ども達とご家族の手助けとなるように、地域の皆様との双方向の関係強化を目指し、よりいっそうの努力をする所存です。引き続き暖かいご支援を賜りますよう、お願い致します。



「看・看」連携と協働について

看護局長 松田慶子

関係諸機関のみなさまには日頃よりご協力をいただき感謝申し上げます。

当センターに受診される方の98.7パーセント（平成17年度）は地域の医療機関等からのご紹介です。近年は医療情勢や疾病構造の変化により病状の重症化が進み、入院等の治療後も在宅において医療的処置を継続的に必要とする子どもが増加しております。

このことは同時にご家族の生活の中で長い期間にわたり、医療的ケアを行うことが余儀なくされることにもなります。地域において医療依存度の高い子ども・ご家族を支援できる体制はまだまだ少なく、ご家族の負担が大きいと感じております。

外来通院するご家族950名に対してアンケートを行った結果をもとに、現在、外来において在宅で継続的に医療的処置を行っている患者さん・ご家族に対し、医師や各部門と連携して具体的な在宅療養指導に力を注いでおりますが、まだまだこれからその内容の充実を図っていく段階にあります。

これからは、地域の医療機関や訪問看護ステーション等の方々とも協働して、医療依存度の高い子どもやご家族への支援を推進するために、子どもが担う役割について具体的に検討したいと考えております。どうぞ、お力添えをお願いいたします。



診療科から（その1）

小児外科は患者さんやご家族のさまざまなニーズに応えていきます

外科 新開真人

こども医療センターの外科は、正確には小児外科と呼ばれる分野を担当しています。小児といっても、超未熟児（体重700g?!）から高校生くらい（体重70,000g?!）まで幅広く、頸部から胸部（心大血管を除く）、腹部および骨盤内臓器（泌尿器を除く）にわたる様々な部位の外科的疾患を診療します。



周産期診療体制のもとで新生児の先天性疾患の外科治療に取り組む一方で、鼠径部や臍部ヘルニアの日帰り手術、生体肝移植や内視鏡外科治療など、様々な患者のニーズに応えQOLを高める医療の提供を行っています。また、急性腹症（虫垂炎、腸重積など様々）、消化管異物、外傷などに対しては、救急診療体制（24時間）をとり早期診断治療に努めています。

診療科から（その2）

食物負荷試験 … 食物アレルギーの診断をどうされていますか？

アレルギー科 栗原和幸

食物アレルギーにおいては、問題となる食品を正確に同定して、必要なら除去食を指導することになります。正確な診断は、一方では症状を改善し重篤な反応の誘発を防止し、もう一方では不必要な除去を解除するために必須です。血液検査(特異IgE)や皮膚テスト(プリックテスト)などは診断に限界があり、しばしば偽陽性を示します。そこで、食物負荷試験が必要になります。

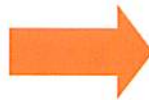
食物負荷試験は昨年4月に保険適応となりましたが、入院して行うなどの制約があり、時間がかかるとともに、時には危険な反応も起こります。アレルギー科では外来、入院の両方で食物負荷試験も積極的に行っています。食物負荷試験のためのご紹介も受けておりますのでご利用下さい。



卵アレルギーのある患者さんの食事の一例



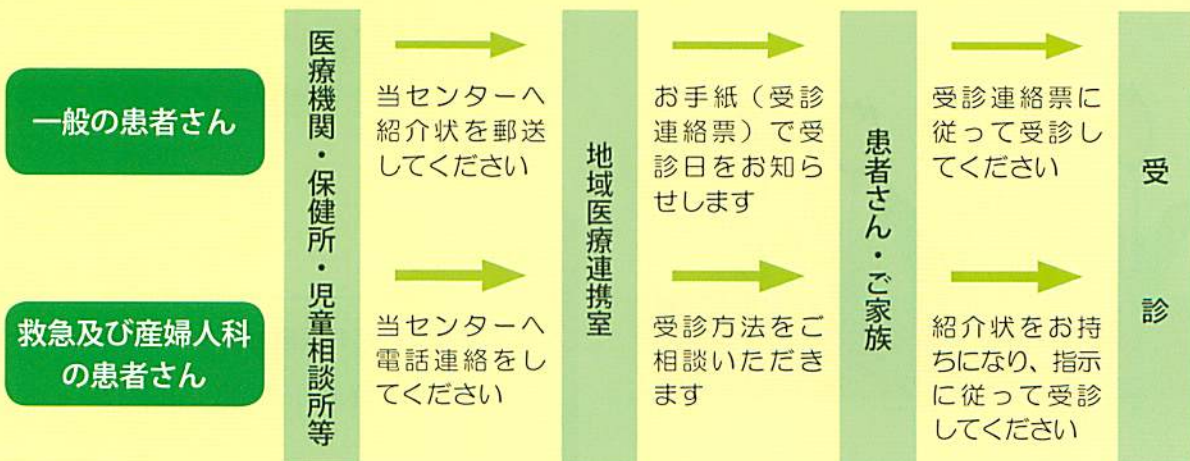
常食の主菜はアメリカンドッグですが、卵が入っているため・・・



卵を含まない「ナン生地」でピザを作りました

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。



神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

母性育児学習会

- ☆ 日 時：平成 19 年 5 月 11 日（金）18：30～
- ☆ 場 所：当センター 本館 2 階 講堂
- ☆ 講 師：井村真澄先生
（国際医療福祉大学助教授）
- ☆ テーマ：母乳育児と SIDS
家族指導と病院での SIDS 予防
- ☆ 事前申し込みは不要（当日会場受付）
- ☆ 問い合わせ：地域医療連携室 担当 千田

こども医療センター看護集談会

- ☆ 日 時：平成 19 年 6 月 23 日（土）午後
- ☆ 場 所：当センター 本館 2 階 講堂
- ☆ テーマ：研究の質の向上
—研究を実践の質の向上にいかしていこう—
- ☆ 問い合わせ：看護教育部

第 74 回こども医療センター学術集談会

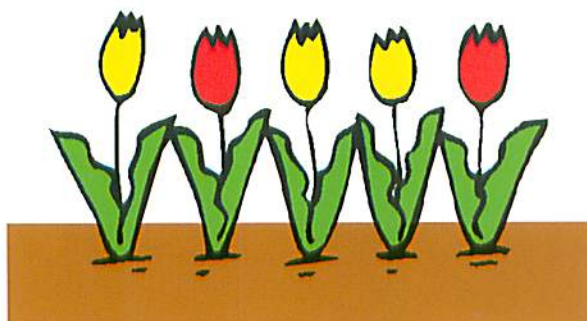
- ☆ 日 時：平成 19 年 6 月 9 日（土）14：00～
- ☆ 場 所：かながわ県民センター 2 階ホール
- ☆ テーマ：学校保健室の疑問に答える（仮題）
- ※詳細が決定次第、当センターホームページでご案内させていただきます。
- ☆ 問い合わせ：総務課（内線 2212）

心臓血管外科勉強会

- ☆ 日 時：平成 19 年 7 月 13 日（金）18:00～
- ☆ 場 所：当センター 本館 2 階 講堂
- ☆ 講 師：益田宗孝先生
（横浜市立大学附属病院心臓血管外科）
- ☆ テーマ：小児弁疾患の手術
- ☆ 問い合わせ：地域医療連携室 担当 千田

心臓手術展示会

- ☆ 日 時：平成 19 年 8 月 11 日（土）13：00～
- ☆ 場 所：当センター 本館
- ☆ テーマ：心臓手術を理解してもらうために
（詳細は未定）
- ※詳細が決定次第、当センターホームページでご案内させていただきます。
- ☆ 問い合わせ：心臓血管外科 麻生



編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4
TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/kodomo/>